

医学研究科

I	教育の水準	教育 12-2
II	質の向上度	教育 12-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医学専攻、医科学専攻、社会健康医学系専攻、人間健康科学系専攻の4専攻からなり、公募制により幅広い領域から教員を採用している。また、理化学研究所等の研究機関の研究者が研究科内に研究分野を設け、直接学生指導を行う連携大学院制度を設けている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 基礎系・臨床系・社会医学系を横断する11の大学院教育コースを設置しており、医学研究者に必要な幅広い素養・自主性・知識・技術を系統的に教育している。また、大学院教育コースは英語化を進め、平成27年度は11コース中6コースを英語で実施している。
- 1年間に履修できる単位数の上限を設けるCAP制を導入するなど、単位の実質化に取り組んでいる。また、平成27年度前期の授業評価アンケートでは、回答者の約7割は、一回の授業当たり3時間以上の授業外学習を行っていることを把握している。

以上の状況等及び医学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目 II 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度における標準修業年限内の修了率の平均は、修士課程・専門職学位課程では90%前後、博士課程・博士後期課程では12%から39%の間を推移している。
- 平成27年度の論文発表数は542件、海外学会発表数は232件となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 26 年度修了生の進路について、修士課程では約 3 割は大学院に進学し、博士課程・博士後期課程では大学や研究機関等へ就職している。また、専門職学位課程では就職者の大半は医学・医療に関係する実務家となっている。

以上の状況等及び医学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 大学院教育コースの英語化を進め、平成 27 年度は 11 コース中 6 コースを英語で実施している。
- 単位の実質化のため、1 年間に履修できる単位数の上限を設ける CAP 制の導入や、授業外学習時間の把握に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度と平成 27 年度を比較すると、論文発表数は 276 件から 542 件、海外学会発表数は 167 件から 232 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。